

AMCoR

Asahikawa Medical College Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

北の文庫 (2008.09) 48号:1～7.

旭川医科大学図書館における展示事業への取り組みについて

小川 聡、藤川みどり、谷本祥子、糸林真優子

旭川医科大学図書館における展示事業への取り組みについて

小川聡、藤川みどり、谷本祥子、糸林真優子
(旭川医科大学図書館)

1. はじめに

旭川医科大学図書館では、2007（平成 19）年 7 月の新執行部発足（図書館長も交替）の直後から、「医学古文書（メディカル・アーカイブス）展示」の事業をスタートさせた。本学図書館の諸事情を勘案した、新発想に基づく再スタート事業である。「再スタート」としたのは、1984（昭和 59）年 3 月から閲覧室の一角でレオナルド・ダ・ヴィンチの「解剖手稿」（複製）を常設展示していた経緯があるからである。これは、本学名誉教授から寄贈された貴重な図書資料を多くの来館者に見学してもらおう企画であり、長らく続いたが、2000（平成 12）年、その役割を終えたとの判断から終了した。

今回の再開にあたっては、展示事業の構想と目的を明瞭に、①学生も含め来館者の増加を図る契機とする、②図書館の新サービスと位置付け図書館活動全般の活性化につなげる、③電子資料に圧され気味の紙媒体資料の有用性を再認識してもらおう契機とする、④医学・医療の発展やその歴史に興味・関心を深めてもらう、の 4 点とした¹⁾。

本展示事業は、学外の個人または機関が所蔵する貴重図書を借用して一定期間展示することを目玉とし、これを「特別展示」と位置づけ、その合間を、本学所蔵資料などの「一般展示」でつないでいくことを基本とするものである。バラエティに富む資料展開が以前の展示とは大きく異なる点である。展示は「平成 19 年度オープンキャンパス」に合わせて開始した。本学を志望する現役高校生やその保護者の学内見学コースに図書館が組み入れられており、彼らに強いインパクトを与えることを直接のねらいとして実施したが、同時に、この展示企画が図書館の事業として継続可能かどうかを占う試金石でもあった。この試みが学内外から好評を博したため、継続事業となったしだいである。

2. 古文書展示の試行

本学は 1973（昭和 48）年に開学した歴史の浅い、しかも小規模な単科の大学である。そのため、自慢できるような古文書は所蔵していない。そんな状況であるにもかかわらず、逆にそれをバネにして、工夫を凝らしつつ実行を試みたところが、他大学には余り見られない新機軸といえるのではないかと自負している。

この事業はまず、本学の鮫島夏樹名誉教授（元副学長）が所蔵する古文書資料、

すなわち、同氏編纂の『関場理堂文庫・和漢医籍目録および注解』²⁾に列挙されている古文書資料（以下「鮫島資料」と呼ぶ）の中から、見栄えがよく展示にふさわしいと思われた人体解剖関係資料を拝借することからスタートした。実現に際しては、医学史・医療史が専門の新図書館長が借用に奔走してくださった。

その第1回展示資料として選んだのは、オープンキャンパスに来学する高校生にもなじみの深い、杉田玄白らが訳した『解体新書』（全5冊）³⁾と、決してポピュラーではないが『解体新書』よりもさらに古くて希少な山脇東洋の『蔵志』（全2冊）⁴⁾、河口信任の『解屍編』（全1冊）⁵⁾、本木良意の『和蘭全軀内外分合図』（全2冊）⁶⁾の、計4種類であった。

これらはいずれも、日本に数点ないし数十点しか現存していない貴重な資料である。そのため、セキュリティに配慮し、急遽、丈夫な展示ケースを購入した。そして図書館内に展示コーナーを設置し、これに伴って館内のレイアウトを若干変更するなど、必要な準備を行った。出来上がった展示コーナーはきわめて小規模でシンプルなものである。展示初日はオープンキャンパス（2007年8月3日）の一環として多くの高校生・保護者の見学を受け、それに続く3日間是一般公開（学内関係者および一般市民）にあて⁷⁾、いずれも好評を博した。

この4日間の見学者数やアンケート結果（532名の見学者・照会者があり、図書館長による説明会の実施が好評であったなど）から、われわれは、企画が成功裡に終わったと判断でき、展示事業を今後も図書館事業の1つの柱として推進していく自信がついた。その後に開催された図書館委員会において、「医学古文書（メディカル・アーカイブス）展示」（以下「古文書展示」）という正式名称のもと図書館の事業として計画的かつ継続的に推進していくという方針が了承された。

この2007（平成19）年8月の展示を第1回と位置づけ、その後、第2回以降として以下を実施した。①本学所蔵のレオナルド・ダ・ヴィンチの「解剖手稿」（複製）を人体の部位ごとに分け、各10日ほど6回にわたって展示、②学内教員から提供を受けた実験生理学に関する古文書を展示、③再び杉田玄白らの『解体新書』などを平成19年度卒業式と20年度入学式に合わせて展示。このように、特別展示と本学所蔵図書的一般展示とをほぼ交互に開催することにより、小規模図書館ではあっても、また、貴重書を所蔵してはいなくても、展示事業は継続できたのである。再開から1年を経た今日では、この事業は本学図書館サービスの重要な柱のひとつとなっている。⁸⁾

3. 古文書展示の継続

平成19年度の4回の実績を踏まえ、平成20年度も、オープンキャンパスや卒業式などの学内行事に合わせて鮫島資料などの特別展示を年3～4回開催することを

基本とし、その合間に本学所蔵図書などを対象とする一般展示を実施することとした。

前述のように、本学図書館には「お宝」となる貴重資料はないが、それでも、「古典」とされる資料の複製品（レプリカ）はいくつか所蔵している。『解体新書』やレオナルド・ダ・ヴィンチの「解剖手稿」⁹⁾などである。これらに加え、館長をはじめ本学関係者に私的所蔵資料の提供を仰げば、今後も一般展示は十分に行っていく。

2008（平成 20）年 5 月には当該年度の展示事業計画（案）が図書館委員会です承された。それに基づき、6 月には、「1902（明治 35）年当時の東京帝国大学医科大学スタッフの自筆講義ノート」の数々を群馬大学医学図書館から拝借して特別展示した。また、平成 20 年度オープンキャンパスおよびその後 5 日間の一般公開の特別展示は、『解体新書』と『重訂解体新書の世界』 一杉田玄白と大槻玄沢一」と題した鮫島資料の展示にあてた。

4. 古文書展示の今後について

この企画においては、「医学古文書展示」という名称が示すように、展示の対象図書は基本的に医学・医療関連分野のものである。しかしながら、来館者をいっそう増やしその様々な知的好奇心に応えるために、今後は、特別展示であれ一般展示であれ、医学医療関係以外からも相応しい資料を積極的に取り込む姿勢が必要となろう。常に展示資料をよりバリエーション豊かにしていかなければなるまい。そのためには、展示資料をどのような観点から、またどのようなジャンルから選定するかを常に考える必要があり、また、日頃から借用ルートをできるだけ多く持つておくことや古文書情報にアンテナを張り巡らしておくことも重要である。その端緒として北海道立図書館から、同館が所蔵する医学古文書情報を提供していただき、目下、今後の展示に向けて具体的な検討をしているところである。今後は、さらにその他の機関へも働きかけ、拝借できる資料を発見したり連携への道を模索したりもしたい。情報を頂戴したり発信したりできる窓口を図書館内に設ける必要もあろう。

5. おわりに

展示の開催に際しては、企画の段階から、パンフレットやポスターを作成したり地元の新聞社に取材をお願いしたり電子メールを活用したりして、広報に努めてはきたが、まだ十分に浸透していない面もある。回を重ねるごとに学内への周知を徹底していく必要がある。同時に地域住民に対しても、めったに見られない貴重な資料であることを強くアピールして、積極的な見学を働きかけていきたい。

初めての方でも、じっくりと古文書に触れれば、先人たちのたゆまぬ努力の一端

を垣間見ることができるであろう。たとえば、遠い過去には人体を解剖し研究するのに多くの障害があったこと、100年前の医師たちには既に現代とほぼ同レベルの解剖学的知識があったことなど、新たな驚きや興味深い発見もいろいろとあろう。展示資料を前にして説明会を開催することで、多くの方々に感動を体験していただき、古い図書資料を見直す契機ともしていただければと思う。展示期間中は、少なからぬ見学者から感激や賛辞の言葉が寄せられた。また、平成19年度図書館利用者アンケート（2007年11月実施）からも、多くの学生が見学し、彼らの多くが感銘を受けたことがわかった。われわれには医学や古文書についての知識は決して多くないが、今後も、当初の構想や目的に沿って続けてきた努力を踏襲しながら、さらに充実した企画・運営を行っていききたい。

小規模単科医科大学の図書館が行うささやかな展示とはいえ、この事業を通し、紙媒体の資料がこれまで果たしてきた役割の大きさや図書館の存在の意義を、本学学生・教員はもとより広く一般市民へも強くアピールしていききたい。そして、この事業が、電子媒体の普及のためもあって疎遠になりがちな図書館へと多くの方々が足を運んでくださる契機ともなればと願う。

とはいえ、いうまでもなく、こうした事業は、情報の提供という図書館の本来的かつ継続的な任務をきちんと遂行し、利用者に決して無駄足を踏ませないことを前提とした上での事業である。すなわち、図書館サービスにおいて、図書館が本来持っている図書や文献をスピーディーに提供するなど、基本的な機能を十二分に発揮できる体制を維持することが肝要であり、そのためにも、その主体となる図書館職員のスキルをますます高める必要がある。これらが前提となってこそその展示事業であることを強く自戒して結びとしたい。

6. 参考資料

- 1) 『大学図書館の挑戦』（田坂憲二著、和泉書院、平成18年）
- 2) 『関場理堂文庫・和漢医籍目録および注解』（鮫島夏樹 [著]、北海道医療新聞社、平成18年）
- 3) 『解体新書』（杉田玄白ほか、安永3 [1774] 年）
- 4) 『蔵志』（山脇東洋、宝暦9 [1759] 年）
- 5) 『解屍編』（河口信任、明和9 [1772] 年）
- 6) 『和蘭全軀内外分合図』（本木良意、明和9 [1772] 年）
- 7) 「北海道新聞」2007年8月3日付朝刊 第32面
- 8) 「旭川医科大学図書館改革のグランドデザイン」（<http://acesv.asahikawa-med.ac.jp/info/news-2007-029.html>）
- 9) 『解剖手稿』（レオナルド・ダ・ヴィンチ [著]、岩波書店、昭和47 [1972]）

年)

7. 開催一覧

No.1 日本における人体解剖学の夜明け

・開催時期：2007/8/3(平成 19 年度オープンキャンパス), 8/6-8/8 (一般公開)

・展示資料：杉田玄白ほか『解体新書』(全 5 冊)、河口信任『解屍編』(全 1 冊)、本木良意『和蘭全軀内外分合図』(全 2 冊)、山脇東洋『蔵志』(全 2 冊)

No.2 レオナルド・ダ・ヴィンチが遺した人体解剖図(複製)

・開催時期：2007/9/12-10/31

・展示資料：レオナルド・ダ・ヴィンチ『解剖手稿』(複製)(9/12-9/25 骨格系、9/26-10/2 循環器系、10/3-10/9 筋系、10/10-10/16 泌尿生殖器系、10/17-10/23 消化器系、10/24-10/31 筋系)

No.3 実験生理学の古典 一血液循環を発見した Harvey と初めて血圧を測定した Hales—

・開催時期：2007/11 月

・展示資料：Harvey『The anatomical exercises,1995 年』(English transl.), Hales『Statical Essays:containing haemastaticks,1964 年』(1733 年刊の復刻版)

No.4 実験生理学の古典 2 一1900年代の生理学者に多大な影響を与えた生理学者—

・開催時期：2008/2 月

・展示資料：Starling『The Fluids of the Body, 1909 年』, Starling『Text Book of Physiology, vol.1, 2, (ed.) EA Schafer,1898 年』, Bayliss『Principles of General Physiology, 1914 年』

No.5 日本における人体解剖学の夜明け(第2回) —

・開催時期：2008/3/25-4/18

・展示資料：No.1 と同じ

No.6 1902(明治 35)年当時の東京帝國大学医科大学(現：東大医学部)スタッフの自筆講義ノート

・開催時期：2008/6/18-7/4

・展示資料：大澤岳太郎(解剖学第三講座教授)、小金井良精(解剖学第二講座教授)、田口和美(解剖学第一講座教授)、大澤謙二(生理学講座教授)、隈川宗雄(生化学講座教授)、山極勝三郎(病理学第二講座教授)、三浦守治(病理学第一講座教授)、青山胤通(内科学第三講座教授)、三浦謹之助(内科学第一講座教授)、入沢達吉(内科学第二講座教授)、木下正中(産科婦人科学講座助教授)、磐瀬雄一(産科婦人科学講座助教授)、近藤次繁(外科学第一講座教授)、佐藤三吉(外科学第二講座教授)、土肥慶蔵(泌尿器科学講座教授)、岡田和一郎(耳鼻咽喉科学講座教授)の各自筆講義ノート

8. さまざまな展示シーンから



手前：山脇東洋『蔵志』
左奥：杉田玄白ほか『解体新書』
右奥：本木良意『和蘭全軀内外
分合図』

残存僅少な資料が一堂に会す

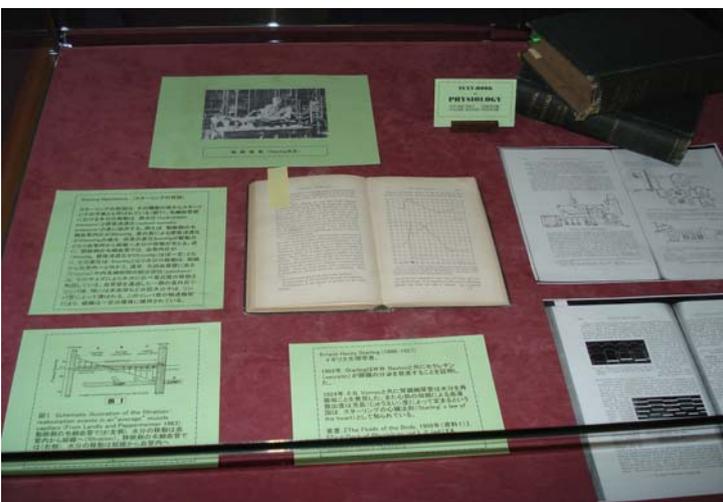
レオナルド・ダ・ヴィンチ
『解剖手稿』

「万能人」が医学分野にも
多大な功績を遺した跡



Ernest Henry Starling
William Maddock Bayliss
(ともにイギリスの生理学者)
による著書

彼らの研究を著した資料は
20世紀の生理学者たちに
多大な影響を与えた





平成 19 年度
オープンキャンパス
図書館長による説明会

多くの高校生が
日本最古の解剖書を
間近に捉えた



同上

熱心に解説に聞き入る
高校生たち



医学古文書展示コーナー全景